

市販のミネラル水はすっかり消費者に定着した。しかし物価高の昨今、一本飲むたび百円玉が消えていくのは負担だ。浄水施設の性能向上で水道水の質も向上しており、少しの工夫で割安に美味しい水が味わえる。「おいしい水 きれいな水」(日本実業出版社)などの著書があるジャーナリストの橋本淳司さんに、おいしい節水生活をアドバイスしてもらった。



橋本 淳司

水道水は評判が悪い。「においがする」「まずい」。だから市販のミネラル水が人気を得る。日本ミネラルウォーター協会によると、二〇〇六年の国民一人当たりのミネラル水消費量は一九・六リットル。五百リットルで四十本分にもなった。水道水の評判の悪さはある面やむを得ない。浄水場を出る段階で消毒用の塩素の添加が法律で定められており、においやまずさの原因になっているからだ。だが、浄水場で生まれる水の質は設備の性能向上でよくなっている。東京都水道局は〇四年に「東京水」とうたって、塩素添加前の

# 水がめでおいしく節水

## 水道水くみおき別物に

水をボトルに詰めて売り出したほど。ならば家庭でも塩素をうまく取り除けば、おいしい水が味わえる。

やり方は簡単。水道水をホームセンターなどで売っている水がめなどにしばらくくんでおくだけでいい。数時間、外気にさらしたり、

飲む。お湯を沸かしご飯を炊いたりみそ汁にしたり。水筒に入れ持ち歩いてもいい。蛇口から出たばかりの水道水とは違う味わいがわかるだろう。もちろん衛生管理には注意が必要だ。家計にもメリットがある。水一リットルのコストはミネラル水の八十三円に対し、水道水はわずか〇・二円(東

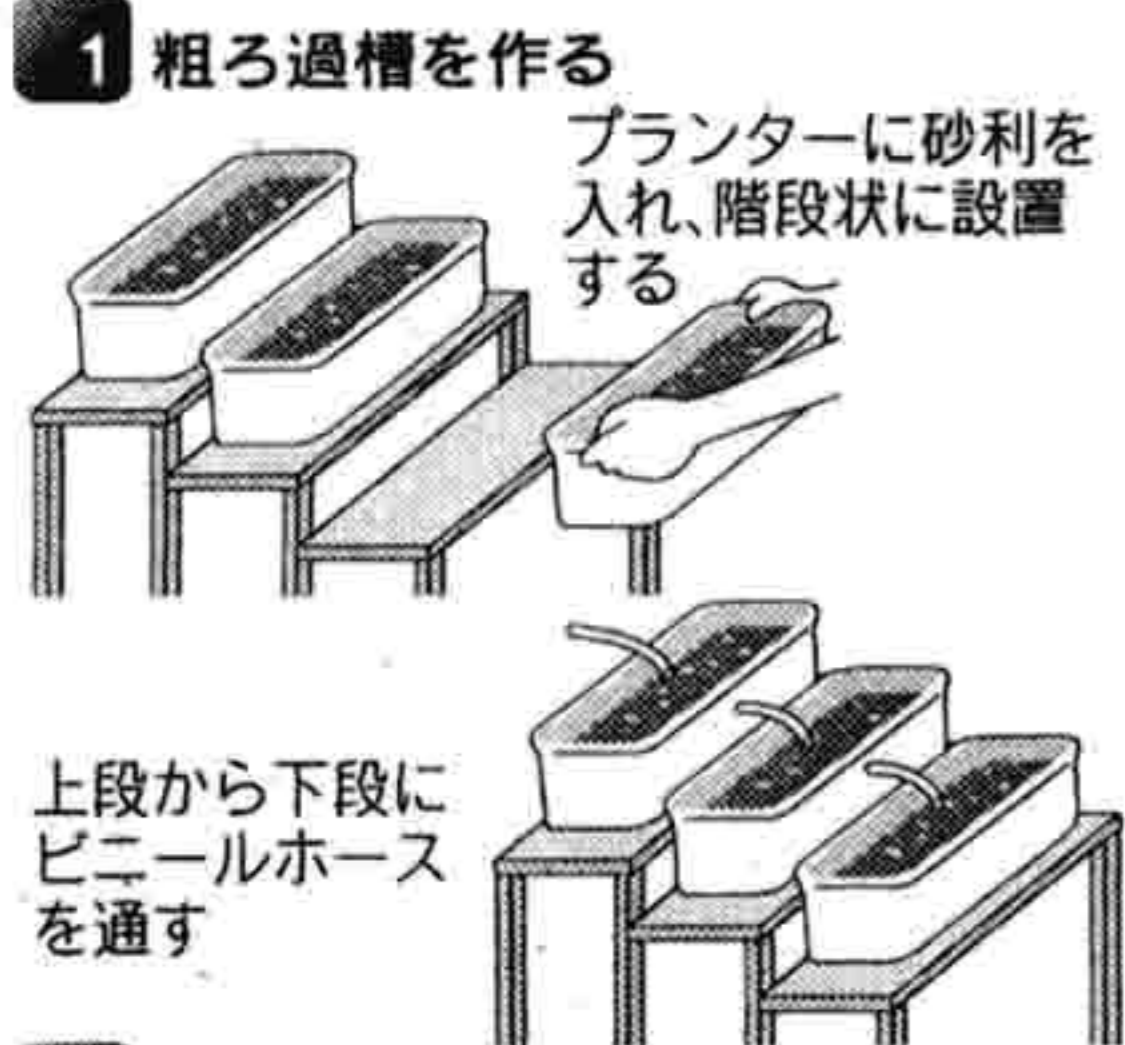
透明なボトルに入れ日光を当てたりすれば塩素は揮発し、味がよくなる。かめに炭を入れるとさらによい。私が愛用するのは昔ながらの備前焼の水がめ。こだわらないなら空き瓶でもバケツでもよい。毎晩寝る前、翌日使う水をくんでおき、朝、かめから水をすくって

京都水道局)だ。大人一人が一日に摂取する飲み水は二・五リットルとして都の料金で計算すると、一年間のコスト差は約七万円になる。節水効果も大きい。手洗いや歯磨き、食器洗い、洗濯、洗車などは水を蛇口から直接使うと、どうしても無駄遣いするからだ。



水道水はくみ置くと塩素が消え味がよくなる

### 緩速ろ過装置の作り方



## 家計・環境にやさしく / 自前でろ過設備も

例えば歯を磨く時に蛇口を開けっ放しにすると、三十秒間に六リットルの水が流れていく。しかし、くみおいた水で歯磨きとうがいをしてみると使う水は四百リットルほど。五・五リットルも節水できた。三人家族なら月に二百二十円、年間二千六百四十円の負担減になる計算だ。

貯水槽を設けた緩速ろ過装置は、微生物の力で川の水をおいしい飲用水に変える。低コストでしかも、最先端のろ過装置と同等の浄水力が期待できる。

百人に満たない住民らが溪流からパイプを敷設して作った装置は今、暮らした水をまかなう。水道法は給水人口が百人以下の場合、適用されないため、塩素の添加も不要。まさに手作りのおいしい水だ。

緩速ろ過装置(上図)はプランターなどを利用すれば家庭でも作れる。興味のある方は試してみるとよい。

既に米国では水道水の利用が環境対策の一つと考えられ始めている。米国では日本以上にミネラル水が幅を利かせている。しかし、ミネラル水はペットボトルの製造や輸送に大量の石油を使い温暖化を促進する。だからできる限り水道水を飲むというわけだ。

日本では住民ぐるみでこだわりの浄水設備を設ける動きもある。滋賀県西浅井町の別荘団地だ。傾斜地にコンクリートなどで段々の

生活